

東日本大震災の教訓

～海上自衛隊災害派遣指揮官の視点から～

Lessons from Great East Japan Earthquake

- from the perspective of Commander JMSDF Disaster relief Task Force

Nov. 6th, 2020

元海上自衛隊幹部学校長

Former President, Naval War Collage,

退役海将 福本 出

Izuru FUKUMOTO, V.ADM. JMSDF Ret'd



自己紹介

福本 出 (ふくもと いる)

○ 現職

株式会社 石川製作所 常務取締役 東京研究所長

○ 桐蔭学園高校9期 (昭和50年卒)

防衛大学校23期 理工学部 (昭和54年卒)

防衛研究所特別課程50期 (平成16年)

University of North Carolina U.S.Navy Executive Development Course (平成20年)

○ 主な経歴

海上勤務

昭和56年～護衛艦通信士・水雷士

昭和59年 練習艦隊「なつぐも」艦長付

昭和60年 機雷敷設艦「そうや」航海長

昭和62年 掃海艇「えのしま」艇長

平成2年 第2掃海隊群司令部掃海幕僚

平成8年 第22掃海隊司令

平成13年 練習艦隊司令部首席幕僚

平成18年 掃海隊群司令部幕僚長

平成22年 掃海隊群司令

陸上勤務

昭和54年 幹部候補生学校30期

昭和58年 幹部候補生学校学生隊幹事付

昭和63年 海幕総務課総務班

平成4年 外務省欧亜局ロシア課出向

平成6年 海幕人事課補任班

平成10年 在トルコ大使館防衛駐在官

平成14年 海幕分析室長

平成16年 鹿児島地方協力本部長

平成20年 呉地方総監部幕僚長

平成21年 幹部学校 副校長

平成24年 幹部学校 校長

～平成26年 退職

平成28年

～平成30年3月 内閣府国家安全保障局顧問

平成30、令和2年度

内閣府総合海洋政策本部PT委員

考えていただきたいこと

東日本大震災における海上自衛隊の活動から

- 自治体や市民が平素から行っておくべきことはなにか
- From the Seaを可能とする環境と防災設備

東日本大震災

平成23(2011)年3月11日

14:46 東北地方三陸沖地震発生

14:50 防衛省災害対策本部設置

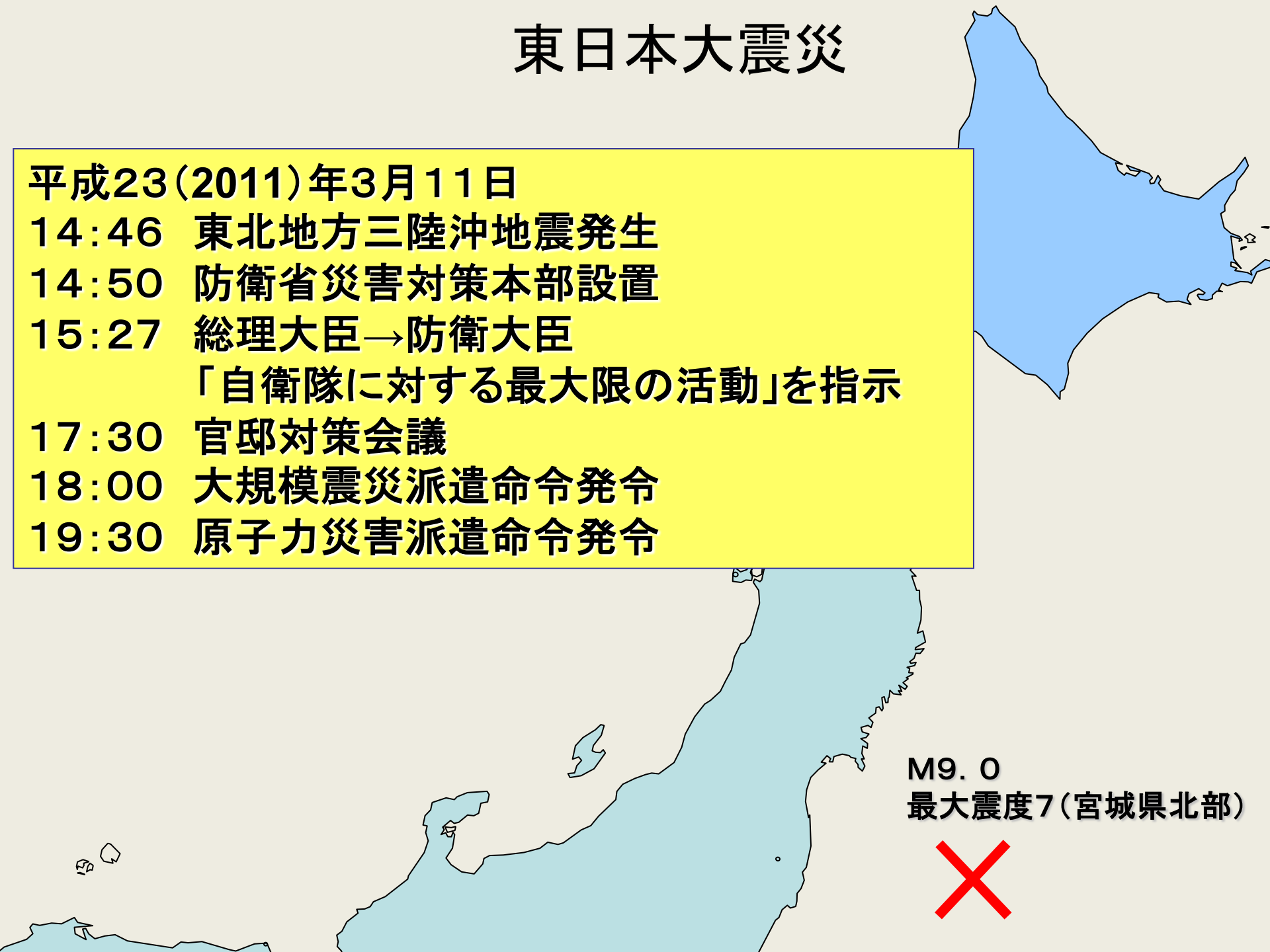
15:27 総理大臣→防衛大臣

「自衛隊に対する最大限の活動」を指示

17:30 官邸対策会議

18:00 大規模震災派遣命令発令

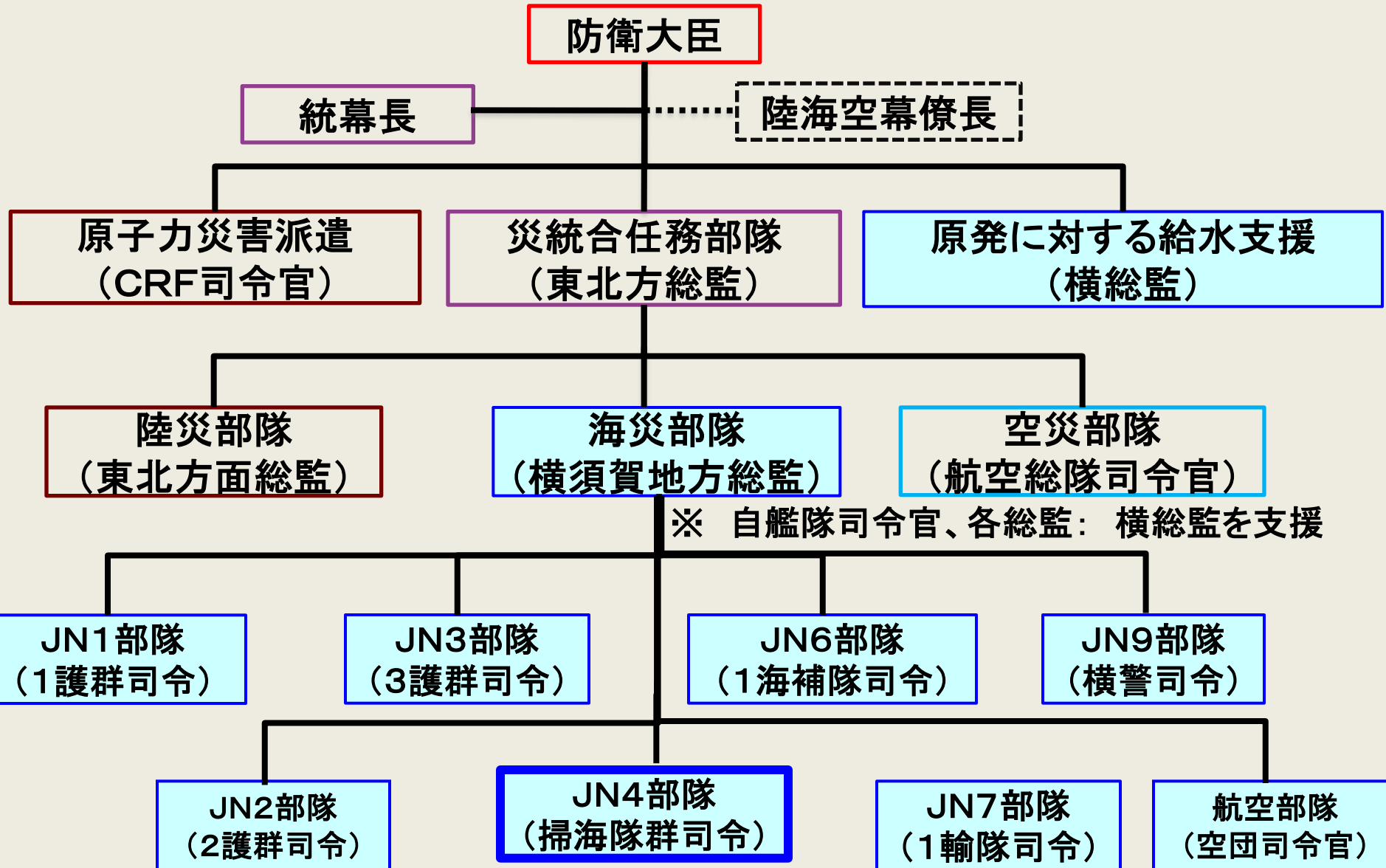
19:30 原子力災害派遣命令発令



M9.0
最大震度7(宮城県北部)



災害派遣部隊の組織・編成



地震直後の海上自衛隊の動き

3月11日

14:46 東北地方太平洋沖地震発生情報

14:57 むつ市大湊航空基地からUH-60J救難ヘリコプター離陸
(地震発生から11分後)



15:08 定期監視飛行中のP-3C哨戒機を現場偵察に向かわせる
(地震発生から22分後)



15:39 護衛艦「さわゆき」横須賀出港
(地震発生から53分後)



以降、海上自衛隊各基地から準備の整った艦艇から逐次出港
翌12日までに約20隻の艦艇が現場において救助活動開始
13日には進出中も含め約60隻の艦艇を派遣

被害の状況

	東日本大震災	阪神淡路大震災(参考)
死亡 12月22日現在	1万5843人	6434人
行方不明 12月22日現在	3469人	3人
漁 船	2万2000隻以上	40隻
漁 港	300以上	17
農 地	2万3000ha	213.6ha
被害額	16~25兆円	9.9兆円

死因及び年齢分布

死 因

水 死 : 92.5%

圧死・損傷死 : 4.4%

火災による焼死 : 1.1%

死因不明 : 2%

死亡者の年齢分布

80歳以上 : 22.1%

70 - 79歳 : 24%

60 - 69歳 : 19.1% (60歳以上の計 約65%)

9歳以下や10歳代、20歳代はいずれも4%以下だった。

東日本大震災(平成23年3月11日)における災害派遣活動

※ 数値は速報値であり、今後変わることがある。

大規模震災対処

3/11

大規模震災災害派遣

8/31終結
(174日間)



人命救助



行方不明者搜索



入浴支援



給水支援

- 活動実績 派遣規模:延べ人員約1,058万人(1日の最大派遣人員約10.7万人)
- ・ 人命救助 : 19,286名 (全体の約7割)
 - ・ ご遺体収容 : 9,505体 (全体の約6割)
 - ・ 物資輸送 : 13,906 t
 - ・ 給水支援 : 32,985 t (最大約200カ所)
 - ・ 給食支援 : 5,005,484食 (最大約100カ所)
 - ・ 入浴支援 : 1,092,526名 (最大35カ所)

原子力災害対処

3/11

原子力災害派遣 (中央即応集団主体)

7/19引継



原発への空中放水



原発への地上放水

原子力災害派遣 (東北方面隊主体)

12/26終結
(291日間)

- 活動実績
- ・ 原発への空中放水:4ソーティ、合計約30t
 - ・ 原発への地上放水:合計約340t
 - ・ ご遺体収容:62体(原発30km圏内)
- 派遣規模:延べ人員約8万人



緊急患者空輸



行方不明者搜索
(原発30km圏内)



一時立入等除染支援

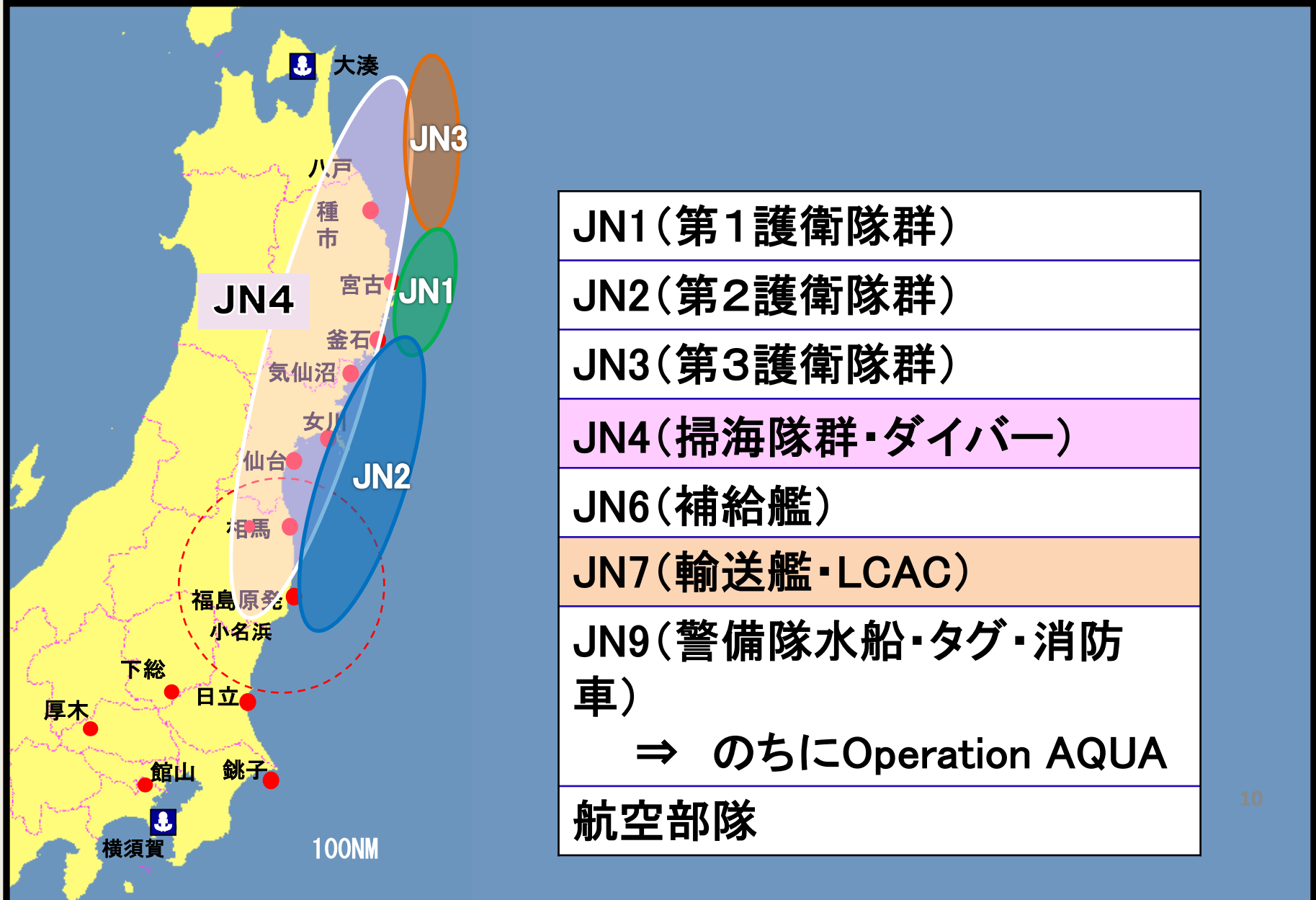


拠点除染(4町村役場)
浪江町、楢葉町、富岡町、飯館村

※ 阪神・淡路大震災における災害派遣の概要

- (1) 派遣期間:平成7年1月17日～平成7年4月27日(101日間)
- (2) 派遣規模:延べ人員 2,254,700名
- (3) 主要な活動内容:人命救助・搜索(遺体収容含む。)、給食支援、給水支援、入浴支援、

海上自衛隊の初期配備



JN1 (第1護衛隊群)

JN2 (第2護衛隊群)

JN3 (第3護衛隊群)

JN4 (掃海隊群・ダイバー)

JN6 (補給艦)

JN7 (輸送艦・LCAC)

JN9 (警備隊水船・タグ・消防車)

⇒ のちにOperation AQUA

航空部隊

海上自衛隊 災害派遣兵力

海自全体

区分	兵力	備考
艦艇	約60隻	海外派遣訓練の取りやめ 修理中止等
航空機	約100機	
人員	約16,000人	支援部隊を含む

海災第4部隊

区分	兵力	備考
艦艇	約20隻	海外訓練の取りやめ 修理中止等
ダイバー	約130人	全国の水中処分隊員を集結

津波災害時に活躍した艦艇、装備

掃海母艦(食糧、真水、軽油、給食、入浴、医療、潜水支援・・・)

掃海艇とゴムボート

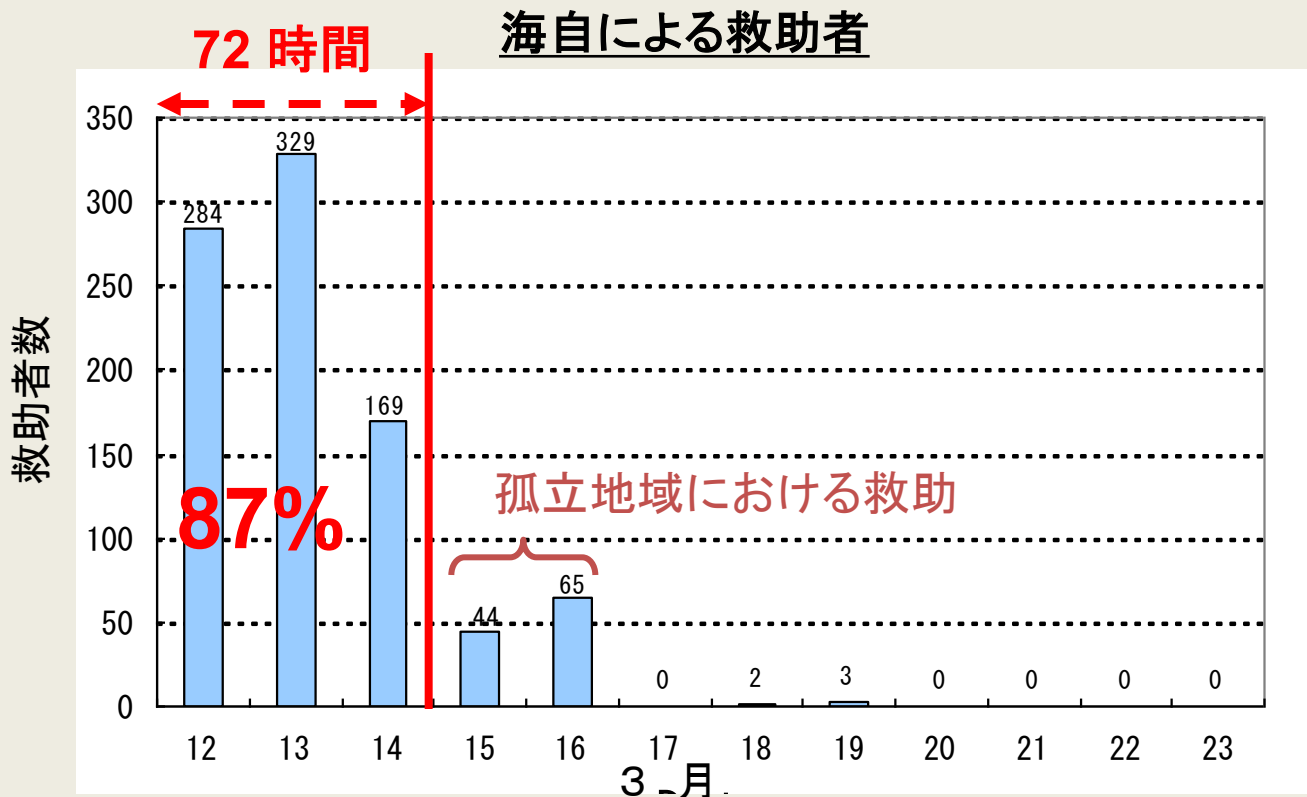


輸送艦とLCAC



初動全力の重要性

➤ 海自救助者の87%が72時間以内



海上自衛隊が実施した主な活動

1 物資支援

2 入浴支援

3 民生支援

4 医療支援

5 行方不明者搜索



海上自衛隊が実施した主な活動

1 物資支援

2 入浴支援

3 民生支援

4 医療支援

5 行方不明者搜索



物資支援における指針

1 顔の見える支援

- 物資のみならず被災者の心情に配慮した血の通った支援

2 部隊ごとに担当地域を極力固定

- 支援地域を極力固定（毎回同じ隊員が訪問）することで、被災者を安心させるよう配慮（状況確認行為の重複も回避）

3 主に中堅以上の隊員により対応

- 被災者との調整には、人生経験のある中年以上の隊員により実施

4 指揮官自ら現場を確認

- 指揮官自ら現場を確認することにより、現場の生の状況を肌で感じ取らせ、被災地のニーズに応じた手早い部隊運用に心掛けさせた。

掃海母艦ぶんご救援物資の搭載(3月14日)

岸壁への集積



ぶんご飛行甲板の集積状況



救援物資に託したメッセージ



隊員の手と足で届けた物資

救援物資配達及び要望確認



作業艇による輸送



リアカーでの配達



背中に担いで



災害時に活躍するヘリコプター

自衛隊最大のヘリによる水2000本の配達
気仙沼大島(4月12日)



支援要求は刻々と変化 “生きるため”から“生活するため”へ



生活支援(入浴支援)

搭載艇で艦との送迎



双眼鏡をのぞく子供達

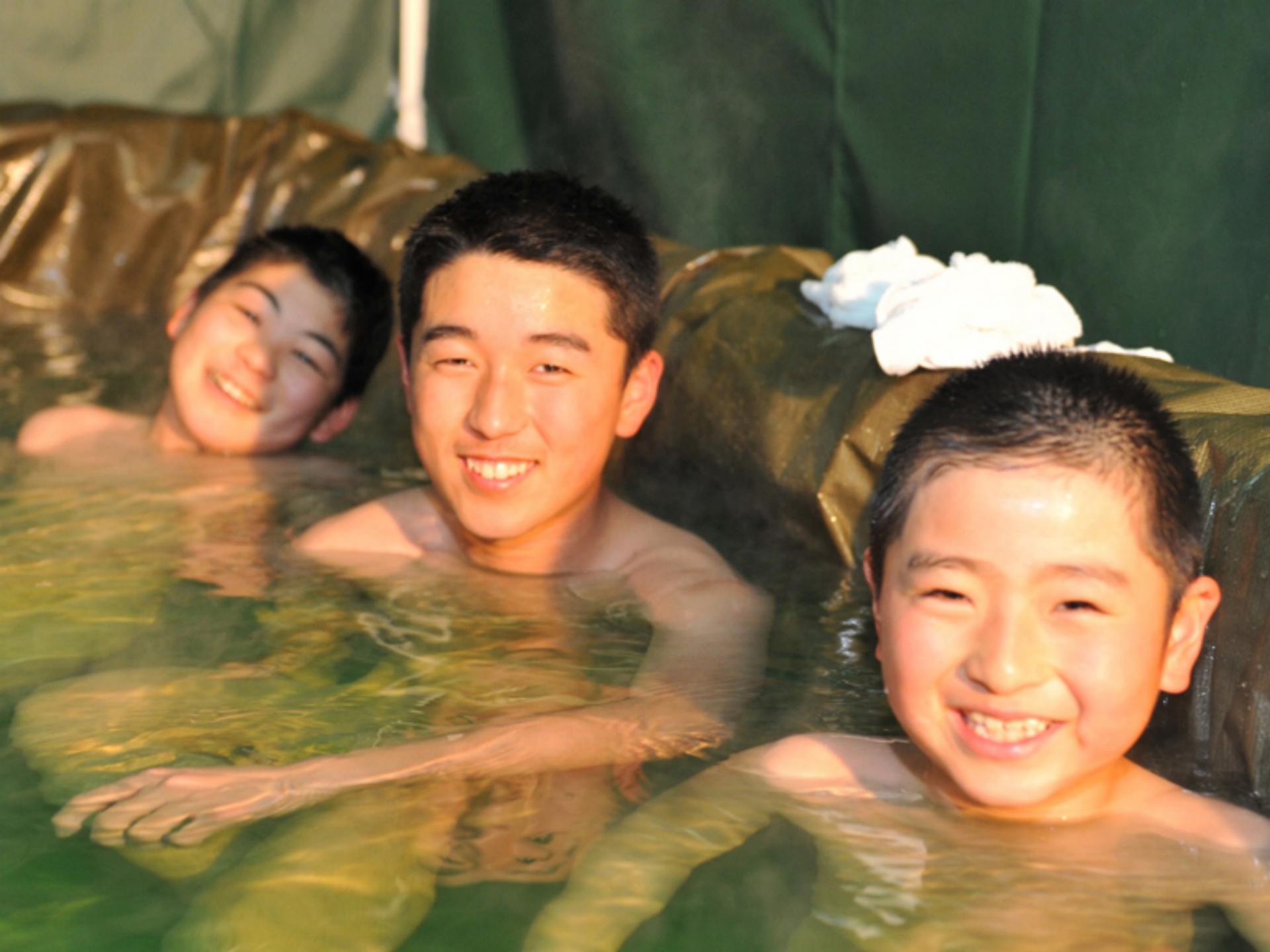


船のお風呂は背丈ほどおおきい



入浴後の団らん

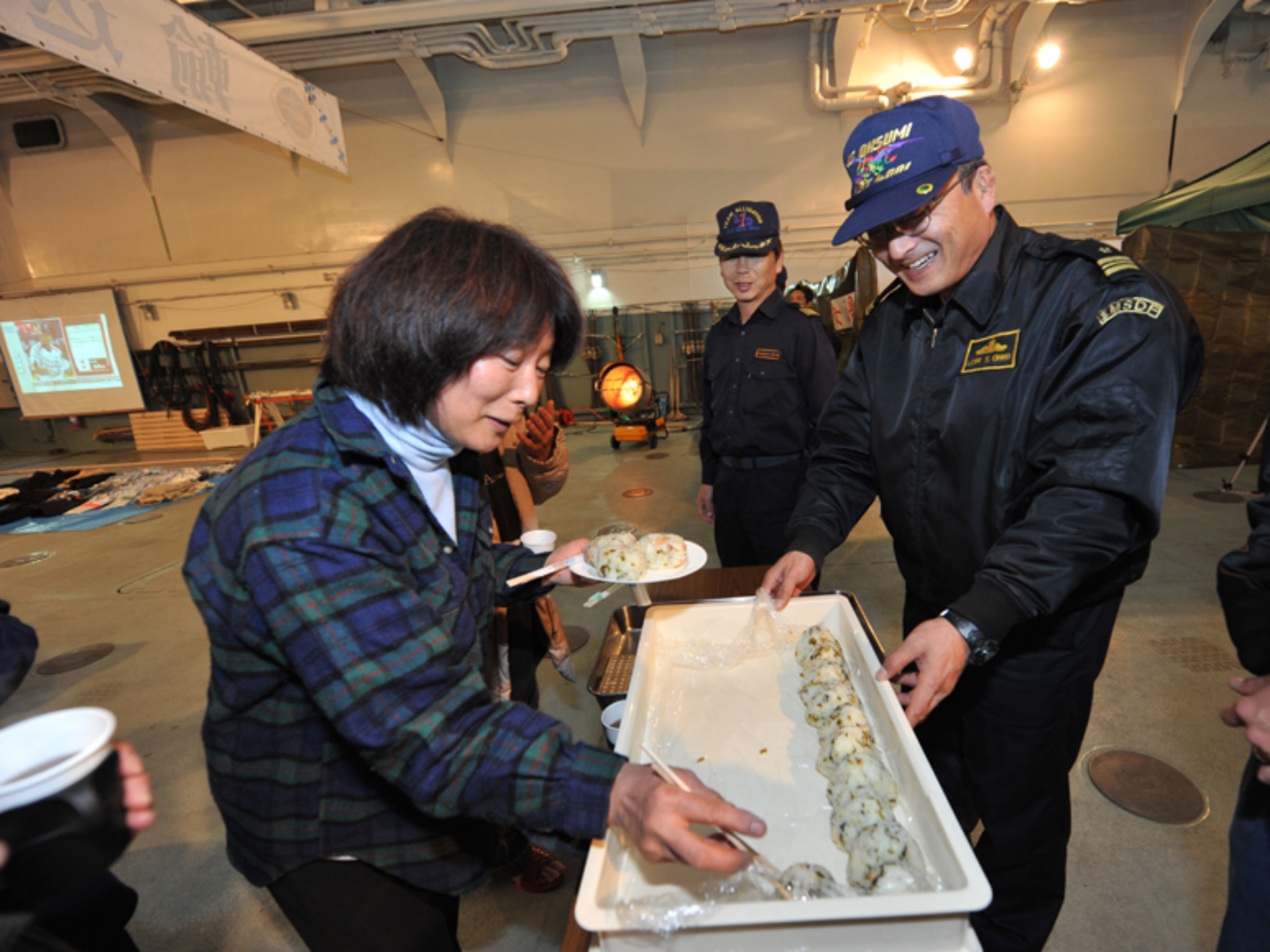














輸送艦 おおすみ





被災者からのメッセージ

とてもお風呂が気持ち良かったです
2週間ぶりだったのでさっぱりしました♡

寄居港の船台まで大船に着いた時

みなさんの大勢で出
迎えてくださり本当に

お世話のあつせんち
ありがとうございました。

みなさんの笑顔が
とてもうれしかったです

船のお風呂に入
るお喜びのオンパ

3/25(金) 今日の

みなさんの優
れが本当に

とても久しぶりに見えたので

3月25日

被災してから、2週間 私達は
みなさんの様に大変お世話に



お世話に
思っています

ありがとうございました
お世話です

り

あなたからのお話を聞いてくると
本当にありがとうございます。

一生懸命に頑張っています。

本当にありがとうございます。

大変お世話になりました。

海上自衛隊が実施した主な活動

1 物資支援

2 入浴支援

3 民生支援

4 医療支援

5 行方不明者搜索



行方不明者の搜索救難における指針

1 全般

掃海艇及び処分艇（ゴムボート）を用いた搜索救難を実施

2 潜水搜索

- ・ 水中視界が悪い（水中視界 0 ～ 1 m）
- ・ 瓦礫等水中障害物による危険性
- ・ 汚水による感染症罹患の危険性

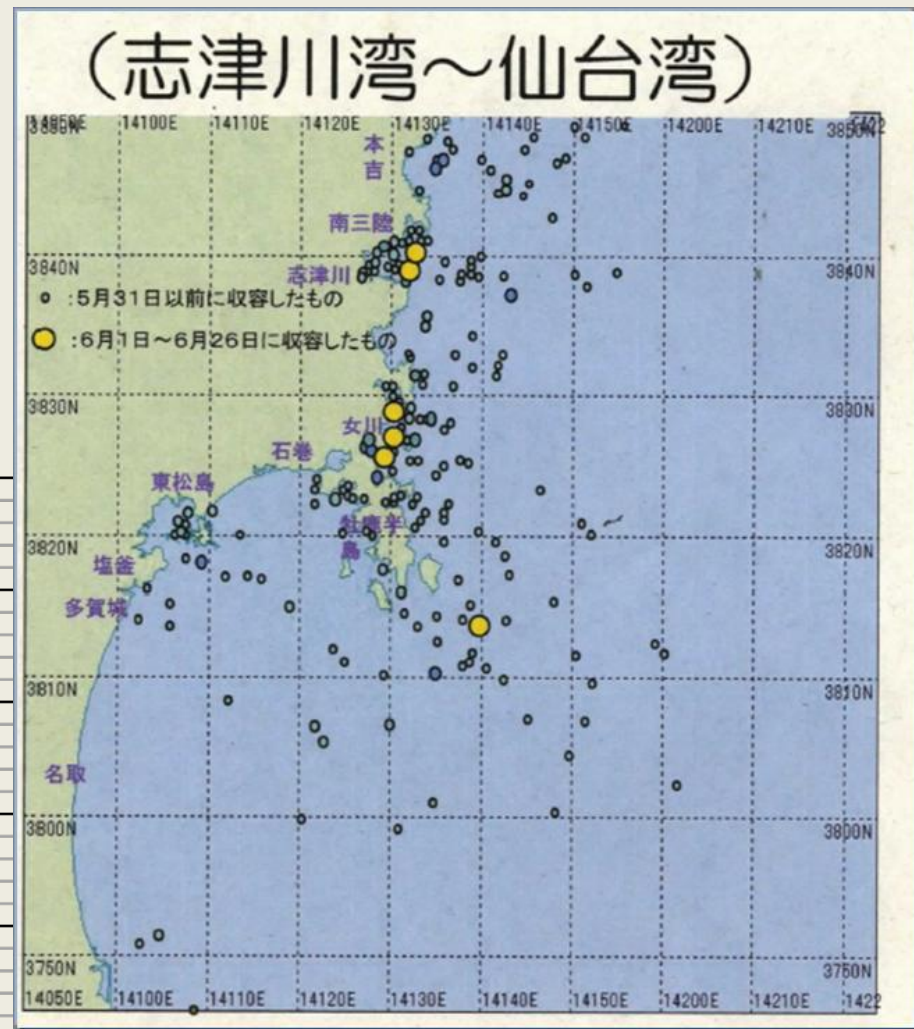
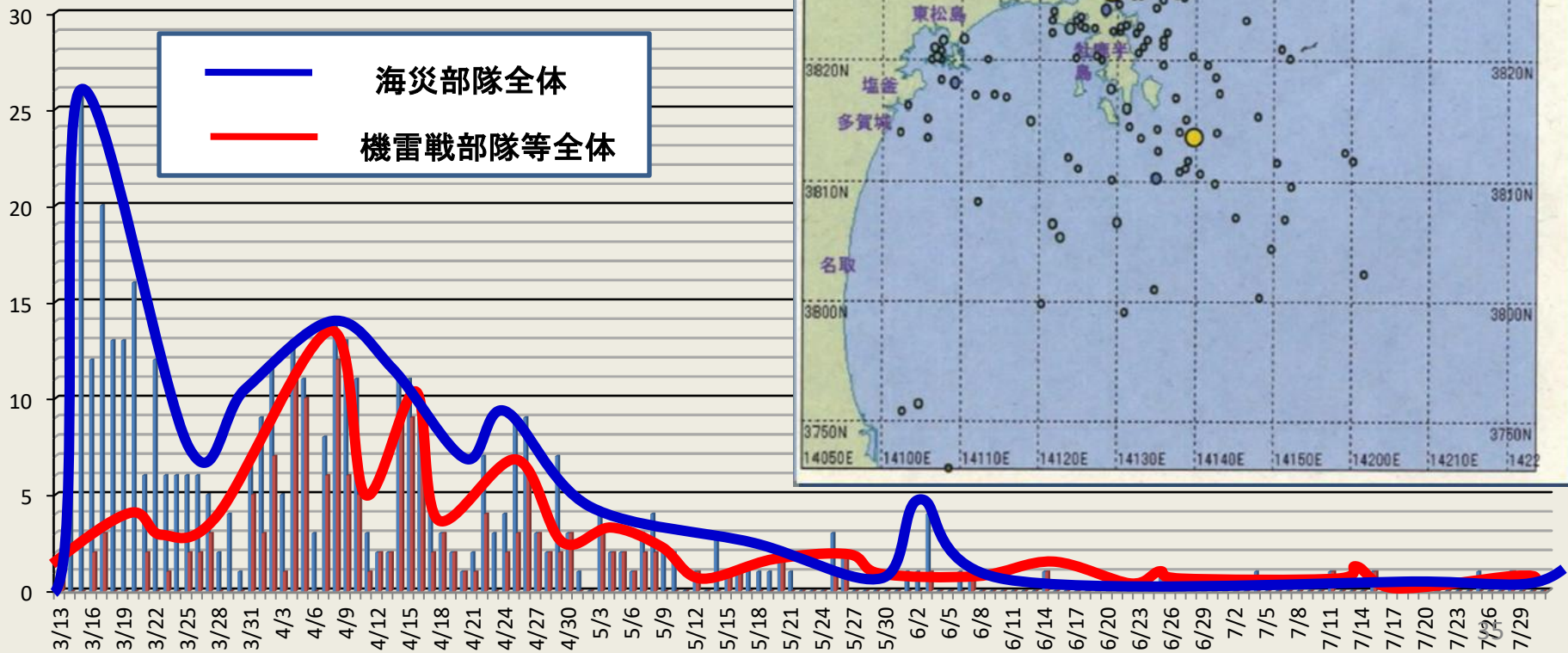


○2次被害の防止、○正確な情報、○住民感情に配慮

ご遺体収容状況(全体)3. 13(日)~7. 31(日)

海災部隊累計: 425体

機雷戦部隊等累計: 174体



瓦礫を掻き分けての搜索

岩手県陸前高田市広田湾(4月20日・21日)





水没車両への搜索(4月4日宮城県南三陸町志津川湾)



海岸部における搜索

岩手県釜石市

釜石市



仙台市閑上漁港での搜索



行方不明者の搜索救難

ご遺体収容状況(岩手県陸前高田市広田湾)



各地区ごとのご遺体収容数(掃海部隊等)

1 期間

3. 11(金)~7. 31(日) 搜索終了

2 収容遺体数等

収容エリア	収容遺体数	収容エリア	収容遺体数
福島沖	1	志津川湾	8
仙台湾	1	小泉湾	2
塩釜湾	2	気仙沼湾	9
松島湾	7	広田湾	99
石巻湾	3	大野湾	1
荻浜湾	2	大船渡湾	5
金華山沖	1	起喜来湾	5
鮫浦湾	5	吉浜湾	1
女川湾	9	大槌湾	6
追波湾	1	船越湾	2
長面浦	2	合計	174



海災部隊全体の収容遺体数: 425体、潜水搜索による収容遺体数: 3体

広田湾における特異事象

収容遺体数: 174体 (7. 31現在)

広田湾: 99体 (57%)

小友浦: 49体 (28%)

小友浦地区
49体収容

広田湾
99体収容

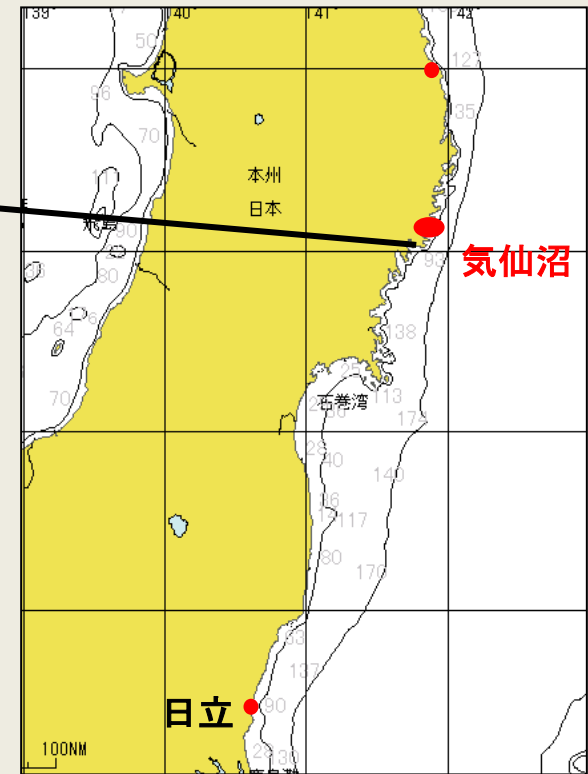
小友浦
に集中

読売新聞(23. 4. 11)投稿記事



小友浦付近で異方向の津波が衝突したことにより、被害が拡大、収容遺体数の増加に影響したものと推定

宮城県気仙沼大島支援の概要



大島_住宅地図・浸水域



大島被害状況





<http://www.dailypail.co.uk/news/article/1365318/Japan-as-thequake-tsunami-The-moment-mother-nature-erupted-into.html>



指揮官による現地視察(3月18日)



非常発電機用軽油の緊急支援

空ドラム缶の受領



燃料の補充



ドラム缶の陸揚げ



ぶんごから出発



23年8月31日災害派遣終了



多くの教訓

- ✓ 正確な情報
- ✓ 通信確保(救援部隊⇔被災地)
- ✓ 各救援組織間Common Operational Picture
状況共有と認識:現場及び作戦情報の共有
- ✓ 統合(自治体・自衛隊・警察・消防・海保・・・)
- ✓ 時間による変化に即応
- ✓ 都市の脆弱性(田舎の強靱性)
- ✓ 緊急事態における“超法規的措置”
⇒ 柔軟性をどう担保しコントロールするか
- ✓ 教訓の収集・分析・共有
⇒ 防災・減災のための施策
- ✓ 適切な想定(シナリオ)による訓練

考えていただきたいこと

東日本大震災における海上自衛隊の活動から

- 自治体や市民が平素から行っておくべきことはなにか
 - 防災訓練 ※特に各組織間の通信連絡網確認
 - 過去からの伝承 “稲むらの火” “気仙沼大島の伝承”
 - 先進国が忘れた“野性”
“便利“さ”快適”さの対極にある生き残り術

- From the Seaを可能とする環境と防災設備
 - 津波を防ぐ施設のジレンマ = 海からの救援を阻む施設
 - ヒトはどこまで自然にあらがえるのか・・・

医療機能を有する海自艦艇

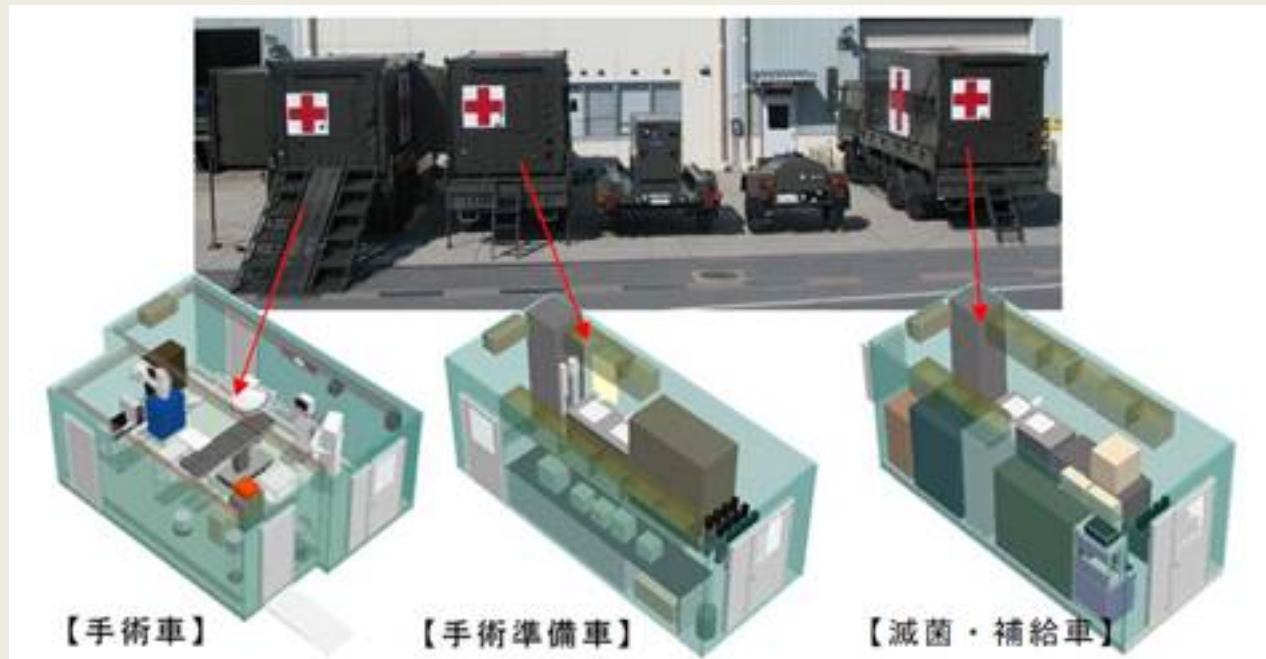
海上自衛隊の全艦艇には乗員数や任務に応じた医務衛生機能を備えているが、中でも次の15隻には手術用施設等充実した設備がある。

艦種	感型	隻数	病床数	手術用寝台	ICU	歯科	その他
DDH	いずも型	2	35	2	有	有	引圧室構造:感染症対応
DDH	ひゅうが型	2	8	1	有	有	
AOE	ましゅう型	2	46	2	有	有	
LST	おおすみ型	3	8	1	有	有	LCAC2隻
MST	うらが型	2	10	1	—	有	再圧タンク
ASR	ちはや型	2	1	8	—	有	再圧タンク
TV	かしま型	1	6	1	—	有	
AGB	しらせ型	1	8	8	—	有	

陸上自衛隊 野外手術ユニット

初期外科手術及び応急治療に使用し、戦闘傷者の救命率の向上を図るもの。

手術能力としては、開胸、開腹、開頭術など救命のための初期外科手術ができ、1日10～15人の手術が可能。



出展:「大規模地震時における既存艦船を使用した医療活動に係る実証訓練支援及び調査業務実績報告書」(30.3.26、独立行政法人国立病院機構防災医療センター)

公的船舶を活用した医療機能の実証訓練

輸送艦:しもきた(呉)

排水量:8,900t
全長:178m
手術用床台:1台
患者用床台:8台



病床計50床:43床+ICU7床



出展:「大規模地震時における既存艦船を使用した医療活動に係る実証訓練支援及び調査業務実績報告書」(30.3.26、独立行政法人国立病院機構防災医療センター)

この子たちの未来のために



ご静聴ありがとうございました